



新しいレポートは、アジアの食品会社の間で動物福祉への関心の高まりを示しています

NGOのSinergia Animalが実施した調査によると、企業の70%がケージフリーの卵サプライチェーンに移行しています

国際NGOのSinergia Animalが発表したばかりの新しい報告書は、50社以上の食品企業を調査し、そのうちの70%(35社)がすでにバタリーケージで生産された卵の使用を段階的に廃止していることを示しています。ケージフリートラッカーと呼ばれるこのレポートは、アジア5カ国（インド、インドネシア、日本、マレーシア、タイ）の企業方針を報告しています。。

35社のうち、8社（アラマーク、クラフトハインツ、ロータス、マリオット、ピザエクスプレス、サラダストップ!、ユニリーバ、ウィンダムデスティネーションズ）がアジア市場における具体的な進捗状況について報告しました。:

「アジアは世界最大の卵生産地域です。この地域では、毎年**10億個以上の卵**が生産されており、その大部分は従来のバタリーケージによるものです: このシステムは、欧州連合 (EU)、カナダ、ニュージーランド、米国の9つの州で禁止されているほど残酷であると言えます。。幸いなことに、アジアの企業はバタリーケージから離れていく必要があることを理解し、より動物に優しい慣行に移行していることを示しています。」とSinergia Animalのコーポレート・コミュニケーションズ・マネージャー、アジア担当のPhichamon (Amanda) Thamasook は述べています。

バタリーケージでは、鶏は一生にわたりA4用紙よりも小さなスペースに閉じ込められ産卵を強いられます。生来、狩猟採集を行う採卵鶏ですが、止まり木、巣作り、砂浴び、羽を伸ばすなどの本能的な行動を行うことができません。ケージフリーを公約する企業は、自然な行動ができ自由に動き回ることができる福祉の高い環境で育った鶏の卵のみを供給することを約束します。

主な調査結果

このレポートは、ケージフリーを公約していない企業をランク付けし、視覚的なデータを消費者に提供することを目的としています。

最下位層にランク付けされている日本マクドナルド、日清食品、キューピーなどのグローバルブランドの多くは、世界の他の地域でのポリシーを持っていますが、日本でのコミットメントがないと報告されています。

また、このイニシアチブはサプライチェーンにケージフリー卵を増やすために企業が行っている進捗状況の透明性を提供することも目的としています。回答した日本国内の26の企業によると、調達した卵の63.1%がケージフリーであることが報告されました。これらの企業には、クラフトハインツ、マリオット、サラダストップ!などが含まれます。



「今後数年間で、アジアにおけるケージフリー卵への移行に向けてさらに前進が見られることを期待しています。消費者は、どのように自分達が食べる食品が生産されているのかということに関心を高めており、企業に動物福祉の基準の改善を求めています。」とThamasookは述べています。

企業の世界的な潮流

過去10年間で、世界では、[2,300](#)以上の食品企業がすでにバタリーケージによる卵の調達を停止することを約束しています。今日、アジアでは急速にケージフリー移行が活発化しています。2021年だけでも、アジアにおいて36の公約、グローバルにおいて23の公約が発表されました。

Sinergia Animalは、運営するケージフリートラッカーにてアジアにおける企業の進捗状況を毎年更新していきます。「この進捗報告に光を当てることで、より多くの企業がより思いやりのある食品を生産する世界的な流れへの参加を促すことができることを願っています。」とThamasookは結論づけています。

アジアで事業を展開する企業の詳細については、[\[https://www.cagefreetracker.com/asia\]](https://www.cagefreetracker.com/asia) をご覧ください。

終了

Sinergia Animalについて

Sinergia Animalは、養殖動物の苦しみを軽減し、より思いやりのある食品の選択を促進するために、グローバルサウスの国々で活動する国際的な動物保護団体です。私たちは、動物慈善団体評価者(ACE)によって世界で最も効果的な動物保護NGOの1つとして認められています。